

◆沖縄での戦火から免れた稀少な古文書

琉球王国時代の資料は、戦争などの影響により残存数が極めて少ないです。本館が所蔵する琉球古文書は、十八から十九世紀にわたる琉球王国関係の各種文書で、冊子体五十九点、一紙文書百五十三点から成ります。

その内容は、王府関係資料、地方関係資料、王府役人採用試験である科試関係資料、さらには組踊台本・琉歌・漢詩文・和歌など多岐にわたっています。

中でも首里王府の役所である貝摺奉行所かいずりぶさしよの古文書は、これまで知られていた同種の古文書よりも約百年遡る年紀を持つという点で、極

めて重要なものです。

貝摺奉行所とは、王府の漆器製作を所管した部署であり、そこでは業務案件ごとに「御道具図并入目料帳」と呼ばれる仕様書が作成されました。ここには道具類の仕様が図示され、材料費の数量や人件費などの諸経費（入目）が詳細に記載されています。

本館では、この古文書を七冊所蔵しています。

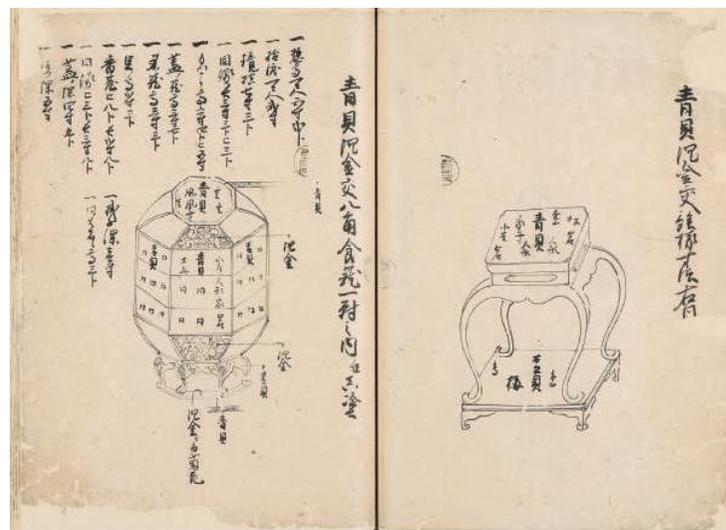
掲出の図案は、「御道具図并入目料帳」に描かれた青貝沈金交中央卓と青貝沈金交八角食籠です。図中の漆器には絵模様が詳細には描かれず、文字で描く文様が記入されています。描く文様を文字で指示する形式

の方が、古い時代の仕様書と考えられています。

現在進められている首里城再建において、この古文書が大きな助けとなりました。従来、「黄塗きかり」は文字どおり「黄色塗装」と判断されて、平成の首里城復原の際には黄色で塗装が行われました。

しかし、この古文書によれば、漆器塗装が「黄塗」と指示されているにもかかわらず塗装に「久米赤土」が使用されています。そのため近年では茶系色の「黄塗」を指すと考えられ、この度首里城正殿玉座の間が茶系色で復原されることになりました。

（天理図書館 三村 勤）



▶【おどくぐずならびにいりめりょうちょう】

18世紀
7冊
縦26.0cm 横21.5cm



<天理図書館のお知らせ>

Tel 0743-63-9200 URL <https://www.tcl.gr.jp/>
◇平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
○2月の休館日：1日・8日・10日～20日・22日・27日
（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）
※最新の情報については公式HP、X（旧 Twitter）でご確認ください。